

日本都市計画学会

学会賞・功績賞・国際交流賞

2013 年年間優秀論文賞

受賞一覧ならびに授賞理由書

公益社団法人

日本都市計画学会



# 目 次

## 1. 学会賞

1) 受賞一覧 .....	1
2) 選考経過および各賞の対象内容 .....	2
3) 授賞理由	
(1) 石川賞 .....	3
(2) 論文賞 .....	5
(3) 論文奨励賞 .....	5
(4) 計画設計賞 .....	9

## 2. 功績賞・国際交流賞

1) 受賞一覧 .....	11
2) 選考経過および各賞の対象内容 .....	12
3) 授賞理由	
(1) 功績賞 .....	13
(2) 国際交流賞 .....	14

## 3. 2013 年年間優秀論文賞

1) 受賞一覧 .....	16
2) 選考経過および表彰対象 .....	17
3) 授賞理由 .....	18



# 日本都市計画学会 学会賞受賞者

(受賞者敬称略)

## <石川賞>

地域主体による、銀座街づくり会議・銀座デザイン協議会の活動

銀座街づくり会議・銀座デザイン協議会

六本木ヒルズにおける街づくり -開業 10 年を迎え、成熟を重ね発展し続ける街-

森ビル株式会社

## <論文賞>

年齢階層別人口統計の高度な活用方法に関する研究

東北大学 奥村 誠

## <論文奨励賞>

イノベーションネットワークの空間構造と国土・地域政策に関する研究 -日本と韓国を対象に-

韓国科学技術院 林 和眞

公開統計情報に基づく全国自治体の持続可能性評価に関する研究

法政大学 川久保 俊

Transformation of Urban Structure and Its Impacts on Reconstitution of Detailed Planning System in Vietnam- Case Study in Hanoi City

東京大学 TRAN MAI ANH

戦災復興土地区画整理事業による街区設計と空間形成の実態に関する研究

-東京都戦災復興土地区画整理事業地区を事例として-

東京大学 中島 伸

歴史保全型まちづくりに対する行政関与に関する研究 -住民・市民関与との相互関係の変化に着目して-

立命館大学 松井 大輔

接道規定からみた京都・都心部の路地空間の特徴及び維持・保全に関する研究

筑波大学 三森 弘

地方分権時代の韓国におけるマウルマンドゥルギ(まちづくり)条例の課題と可能性

東京大学 尹 惠暎

## <計画設計賞>

札幌駅前通地下歩行空間整備および創成川通再整備と周辺まちづくりの一体的推進

-札幌都心まちづくりにおける骨格構造づくりの先導的、複合的取組み-

札幌市・加藤源・篠原修・小林英嗣・札幌駅前通まちづくり (株)

稚内駅前地区再開発事業「キタカラ」 -北国の都市デザイン-

瀬戸口剛・稚内駅前地区市街地再開発組合・稚内市・  
北海道旅客鉄道 (株) ・ (株) 北海道日建設計

アオーレ長岡を核とした「まちなか型公共サービス」の幅広い展開による中心市街地の再生

-新潟県長岡市の取り組み-

長岡市

ひがっしょ路地のまちづくり計画(駒ヶ林町 1 丁目南部地区近隣住環境計画)

駒ヶ林まちづくり協議会・神戸市・(有) スタジオ・カタリスト

## 日本都市計画学会

### 学会賞 選考経過

2014年（2013年度対象）学会賞は、会員が推薦した石川賞候補2件、論文賞候補1件、論文奨励賞候補8件、計画設計賞候補4件、計15件が審査の対象となった。

表彰委員会（学会賞選考分科会・委員全17名）は各々の候補の業績について複数の担当審査委員が独立に査読および調査を実施し、各委員から提出された評価にもとづき、分科会で慎重に検討の結果、受賞候補を選定した。

特に評価の分かれた案件については委員会席上でその結果を照合、討論、協議し、分科会の最終審査結果とした。さらに分科会の審査結果を理事会に諮って、石川賞2件、論文賞1件、論文奨励賞7件、計画設計賞4件の受賞が決定した。

---

### 各賞の対象内容

#### 石川賞

都市計画に関する独創的または啓発的な業績により、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をした個人または団体を対象とする。

#### 論文賞

都市計画の進歩、発展に顕著な貢献を認められる研究論文を近年発表した会員（個人）を対象とする。

#### 論文奨励賞

都市計画に関する将来性・発展性が顕著な研究論文を最近発表した会員（個人）を対象とする。

#### 計画設計賞

都市計画に関する計画、設計、事業などに関する近年の作品で、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をしたものを対象とする。

<b>石川賞</b>	
<b>受賞者</b>	<b>銀座街づくり会議・銀座デザイン協議会</b>
<b>作品名</b>	<b>地域主体による、銀座街づくり会議・銀座デザイン協議会の活動</b>
<b>授賞理由</b>	<p>我が国の代表的商業地である中央区銀座地区では、建築物の機能更新と長年にわたり培われた銀座らしさの継承という二つの課題の中で、銀座の街並みのあり方をめぐり活発な議論がなされてきた。こうした重要課題に地域として主体的に取り組むため、街づくりの専門家などの協力を得て、銀座街づくり会議と銀座デザイン協議会が設立され、両組織が中心となって他に例を見ない独創的な活動が展開されている。</p> <p>銀座街づくり会議では、行政・専門家などと連携しながらシンポジウムやニューズレターなどの啓発活動を精力的に行い、地域主体のオープンな議論を通じて街づくりの意識を高め、銀座の将来像の共有化を図るとともに、これを深化させてきた。特に、超高層ビルの建設構想に対し地域の議論を尽くし、地区計画に基づく銀座通りなどの高さのルールを基本的に維持するとの決定を行ったことは、地域にとって大切な街並み景観は自分たちで創り上げていくという強い意思に基づくものであり、その主体的な選択は大いに評価することができる。</p> <p>銀座デザイン協議会は、街並みを自ら守り創っていかこうとする地域の意識の高まりを背景に、銀座デザインルールを作成し運用してきた。この取組は基準への適合を機械的に求めるのではなく、文言で表されたデザインコンセプトに基づき、協議会と建設者側との協働作業によって銀座らしさを高めるデザインにしていこうとするものである。これまでに約 1000 件にも上る数多くの案件にきめ細かく対応し、銀座にふさわしい景観デザインの誘導に大きな成果をあげてきた。この取組により「銀座らしさ」の意味を探りながら銀座地区全体の空間の質を高めることに大いに寄与するとともに、将来像の議論にも反映させ街づくりを一層柔軟性のある持続可能なものとしている。</p> <p>このような先進的かつ独創的な街づくりの取組と成果は、今後の成熟社会における地域主体の街づくりの範となり、今後の我が国の都市計画の発展に大きく寄与するものと考え、石川賞に値すると判断された。</p>

石川賞	
受賞者	森ビル株式会社
作品名	六本木ヒルズにおける街づくり -開業 10 年を迎え、成熟を重ね発展し続ける街-
授賞理由	<p>六本木ヒルズの開発事業とまちづくりへの取り組みは、その開発プロセスにおける多数の地権者との合意形成や事業化に至る経緯も注目されてきた。そして、開発事業における独創的な種々の計画内容が、開業 10 年を迎えて着実に実現され、「まちをつくる」段階から「まちを運営する」段階まで一貫して行ってきた都市再生であること、新しい文化・情報を発信しつづけるなどにより、地域の発展に多大な効果をもたらしていることは特筆すべきものである。</p> <p>また、阪神淡路大震災等の教訓をふまえて安全・安心な「逃げ込める街」に向けた多くの取り組みを行っている。中でも平常時から 100%の電力を供給しているガス常用自家発電を備え、電力会社からの受電、オイルによる発電のバックアップ体制も備えたエネルギープラントが、2011 年の東日本大震災の電力需給逼迫時にも電力を途絶えることなく供給し、節電等で生まれた電力を東京電力に供給して社会に貢献するなど、その有効性が実証された。</p> <p>その結果が、今後のエネルギーの重要性をふまえた BCP（事業継続計画）策定の動きにつながっており、先駆性・社会への貢献度が大きく評価できるとともに、世界の都市間競争を担うこれからの日本の都市開発のモデルにもなっている。</p> <p>このように六本木ヒルズが、文化・エネルギー・防災など「街」と拠点機能を東京都心部に形成する上で重要な要素に、ハード整備と整備後のマネジメントの両面から取り組んできた内容は、21 世紀初頭を代表する大規模都市開発のモデルとして高く評価されるべきと考える。</p> <p>以上から、石川賞にふさわしいと判断された。</p>



論文賞	
受賞者	奥村 誠
作品名	年齢階層別人口統計の高度な活用方法に関する研究
授賞理由	<p>自治体の将来人口構造は都市計画を立案する上で必要な情報である。本論文は、年齢階層別の人口統計を巧みに組み合わせて有用な情報を引き出した二編の査読付き論文からなる。</p> <p>一編は、長子の人口バランス指標を用いて、扶養介護を目的とする壮年者の人口移動を推定している。我が国の高度成長に貢献した地方から都心への若年人口移動、その中長期的影響に着目した意欲的な研究である。</p> <p>もう一編は、国勢調査における移住 OD 表の年次補完という形で移住履歴を推定し、人口流入や回帰の規模を算出している。個人情報という部分に入り込まず既存データから推定できるという実用的な研究である。</p> <p>いずれも優れた発意により、分析手法を明快に駆使し、大量の情報に基づく視覚的に優れた結果を提示している。人口減・高齢化を踏まえた地域振興という今日の課題解決に貢献する成果であり、日本都市計画学会論文賞に相応しいと認められた。</p>

論文奨励賞	
受賞者	林 和真
作品名	イノベーションネットワークの空間構造と国土・地域政策に関する研究 -日本と韓国を対象に-
授賞理由	<p>本研究は、空間的な近接性に基づく地域単位の政策推進という従来型の国土・地域政策から一歩進んで、より広域化に対応できる、柔軟性のあるネットワーク・ガバナンス体系を持つことが有効であるという提言を行っている。地理的空間概念・実体的距離概念に重きを置いてきたこれまでの国土・地域政策研究の枠組みに対し、本研究はイノベーション・ネットワーク分析を用いてアプローチしている点で新規性が認められ、研究の発展性も高い。また、イノベーションが連続した空間では展開されていないこと、Hub の重要性が高いことを明らかにしており、国土・地域政策において地理的概念に縛られない発想を求める点で政策的示唆に富む。また、日韓比較も行っており、両国の実際の政策の差がネットワークの展開の差に表れているとの指摘も重要である。よって本研究は、日本都市計画学会論文奨励賞のふさわしい内容を十分に有していると判断された。</p>

論文奨励賞	
受賞者	川久保 俊
作品名	公開統計情報に基づく全国自治体の持続可能性評価に関する研究
授賞理由	<p>本研究は、一般の利用が可能な公開情報を駆使することにより、全国の自治体を単位に、環境・社会・経済の3つの観点より低炭素化の努力とそれぞれの地域の持続可能性を評価するという目的のもと、データベースの構築・評価モデルの検討・GISを用いた分析結果システムの構築および複数の考察事例の提示など一貫した思考で作業を行い、整理している。自治体の持続可能性評価は欧州を中心に進んでいるが、日本における適用事例はまだ少なく、研究機関等にて同様の試みがなされているが、本研究は都市間比較を可能とするため、実務的にも応用可能性が高いと考えられる。また、独自の大規模市民アンケートから提案した評価モデルの妥当性を検討した点においても優れている。よって本研究は、日本都市計画学会論文奨励賞のふさわしい内容を十分に有していると判断された。</p>

論文奨励賞	
受賞者	TRAN MAI ANH
作品名	Transformation of Urban Structure and Its Impacts on Reconstitution of Detailed Planning System in Vietnam- Case Study in Hanoi City
授賞理由	<p>本論文は、ミクروسケールの地区計画制度の観点から、歴史的な資料の発掘、土地利用転換動向の分析、地方政府の各レベルの担当官に対するインタビュー、住民へのアンケート調査を実施し、それらの結果に基づいて、ベトナムにおける都市開発制度の歴史的な変容とその現代的課題を包括的かつ体系的に解明した論文である。社会主義的開発プロセスと市場経済的開発プロセスが混交して展開され、新規開発地区と既存農村都市化地区という二分された都市化プロセスでの同一開発コントロールの適用や、開発行政の分権化と計画システムの集権性との齟齬が問題を起こしていること等を明らかにしている。東南アジアの都市をフィールドとする研究は必ずしも少なくはないが、詳細な現地調査結果を論理的、体系的にまとめあげ、これからの現地の都市計画及び関連研究の発展に有用な結果を示しており、論文奨励賞に相応しいと判断された。</p>

論文奨励賞	
受賞者	中島 伸
作品名	戦災復興土地区画整理事業による街区設計と空間形成の実態に関する研究 -東京都戦災復興土地区画整理事業地区を事例として-
授賞理由	<p>本論文は、土地区画整理事業による空間形成に着目し、東京都を中心に全国各都市の戦災復興土地区画整理事業を例に、膨大な資料の分析と実地調査に基づき、多様な空間形成が行われていたことを実証した意欲的な論文である。特に優れている点は、換地設計の方針や区画整理設計標準から空間形成の思想を読み解き、発掘した一次史料の計画図等を基に街区レベルでの空間形成の実態を分析し、地区の文脈に応じた多様な空間づくり、詳細な街区利用イメージに基づく街区設計が行われていたことを明らかにした点である。戦後都市計画の歴史研究等として研究の発展性を有すると共に、今後の都市縮退期における都市ストック活用の上で有意義な知見を与えてくれるなど、都市計画に関する将来性・発展性を備えており、日本都市計画学会論文奨励賞にふさわしいと判断された。</p>

論文奨励賞	
受賞者	松井 大輔
作品名	歴史保全型まちづくりに対する行政関与に関する研究 -住民・市民関与との相互関係の変化に着目して-
授賞理由	<p>本論文は、住民が主体となるまちづくりの中で、歴史保全型まちづくりにおいて、住民・市民の関与と行政の関与が、いかに形成し発展するのかを豊富な資料に基づき実証的に分析したものである。1970年代後半より取り組まれてきた住民参加によるまちづくり活動が行政との協働によるものとして認識されてきている様相から、多くの事例を分析した労作であり、都市計画における官民共同の今後に向けて多くの示唆を含んでいる。今後この研究がさらに進められることにより、住民・市民によるまちづくりが行政との連携・協働関係が深まり、公共的な役割を担う活動としてより発展していくことへの期待を含め、日本都市計画学会論文奨励賞にふさわしいと判断された。</p>

論文奨励賞	
受賞者	三森 弘
作品名	接道規定からみた京都・都心部の路地空間の特徴及び維持・保全に関する研究
授賞理由	<p>本研究は、歴史都市京都の路地空間の特徴と制度的課題をふまえて、「路地を維持保全するためのしくみ・制度のあり方を示すこと」を目的としている。景観・文化的側面から、路地空間の社会的側面と空間特性の変容を資料や現地調査をもとに丁寧に読み解き、伝統的景観の残る都心地区の路地空間の特徴を類型化するとともに、路地空間の制度面から見た変容と課題を明らかにし、制限緩和手法における無接道路敷地の適合状況・可能性を検証していることが評価できる。歴史的密集市街地の防災安全対策が急がれる中、本研究で明らかにされたハード・ソフトあわせた地域総合力による「安全の性能規定化」の方向性を全国の都市で共有し、さらに住民・自治体の中で推進されることの期待を含め、日本都市計画学会論文奨励賞にふさわしいと判断された。</p>

論文奨励賞	
受賞者	尹 惠暎
作品名	地方分権時代の韓国におけるマウルマンドウルギ(まちづくり)条例の課題と可能性
授賞理由	<p>本研究は、日本のまちづくり条例に相当する韓国のマウルマンドウルギ条例が、政治的・社会的背景の中で、住民・住民組織が地域社会において主導的に課題解決に取り組む提案や活動を、行政が支援するための法的枠組みとして制定されたことを明らかにした上で、全ての条例の内容を分析し、特徴と影響要因を分析している。マウルマンドウルギに関する論文は少なくないが、条例の全てを網羅した研究として新規性が認められる。また、自治体アンケート及びケーススタディのヒアリングを行って、条例やそれに基づく制度の機能と課題を明らかにしているが、条例の制定プロセスや制定後の運用の状況について包括的かつ詳細な知見（条例に基づく事業の効率性を高める制度設計がなされた等）を提示している点は高く評価でき、研究の発展性も高い。よって本研究は、日本都市計画学会論文奨励賞のふさわしい内容を十分に有していると判断された。</p>

計画設計賞	
受賞者	札幌市・加藤源・篠原修・小林英嗣・札幌駅前通まちづくり(株)
作品名	札幌駅前通地下歩行空間整備および創成川通再整備と周辺まちづくりの一体的推進 -札幌都心まちづくりにおける骨格構造づくりの先導的、複合的取組み-
授賞理由	本作品は、札幌市都心部の魅力と活力の向上のため「都心まちづくり計画」を制定し、複合的な取り組みと都市の骨格づくりをとりまとめ、これからの都市空間形成のあり方を先進的に提示している。1) 都市部の総合的なマスタープランにおいて、位置づけ目標を明示し、整備の基本計画について包括的に策定している。2) 計画推進にあたって、行政・デザインチーム・専門家による協働的計画体制を構築し、基本計画から実施設計に至るプロセスにおいて、一貫して同一体制で計画を推進しているため、計画理念が貫かれている。3) 多面的な活用を実現する公共空間の管理方式を構築し、地元まちづくり会社に委ねることによってにぎわいの創出に大きな効果を発揮している。4) 人と環境を重視した都市空間形成へ方針を転換した成果を、駅前通および創成川通などによって、目に見えるかたちで実現した。以上の理由により本事業は、日本都市計画学会計画設計賞に相応しい内容を十分に有していると判断された。

計画設計賞	
受賞者	瀬戸口剛・稚内駅前地区市街地再開発組合・稚内市 ・北海道旅客鉄道(株)・(株)北海道日建設計
作品名	稚内駅前地区再開発事業「キタカラ」-北国の都市デザイン-
授賞理由	本作品は、「日ロ友好最先端都市の形成」を基本理念に、「マチ」と「ミナト」の連携強化、賑わいのある生活街の形成、都市観光による交流促進の3つを基本テーマとして展開された稚内市の駅前地区市街地再開発事業である。本事業は、頭端駅にこだわった駅舎のデザインを行うとともにアトリウム空間へ導き、魅力的な交流空間を創出していること、風雪シミュレーションにより駅舎デザインを決定したこと、市街地再開発事業と臨港地区施設整備を連携させ、両地区で都市デザインを共有することで、両地区で相互の動線や施設の連携を図り、北国に必要なアトリウムを中心に一体的なデザインを実現していること、駅の真上に高齢者住宅を整備し、まちなか居住を実現していることなど、北国の都市デザインとして都市計画の発展に顕著な貢献をしており、他都市の参考となることから、計画設計賞に相応しいと判断された。

計画設計賞	
受賞者	長岡市
作品名	アオーレ長岡を核とした「まちなか型公共サービス」の幅広い展開による 中心市街地の再生 -新潟県長岡市の取り組み-
授賞理由	<p>本事業は、長岡市役所の諸機能を市中心市街地に移転し分散配置するという発想の下、それらを核に、各種公共サービスや居住機能などを組み込んだ複数の市街地再開発事業や民間施設の建て替え事業などを連動させる手法で、都市機能の更新と再集積を図り、中心市街地の賑わいづくりと市民の交流活性化を実現した。その後も、複数の再開発事業が検討されるなど、各種の取り組みが連鎖的に進みつつある。地方都市の中心市街地活性化という商業に重点が置かれることが多い中で、本事業は、「まちなか型公共サービスの展開」という中心市街地活性化の新たなモデルを提示しており、さらには、市民の活動の場と行政の場を「市松模様」のように絡み合わせる手法で市役所の新しい在り方を提示したなど、他の地方都市にも大きな影響を与えようとしている。以上の理由により本事業は、日本都市計画学会計画設計賞に相応しい内容を十分に有していると判断された。</p>

計画設計賞	
受賞者	駒ヶ林まちづくり協議会・神戸市・(有)スタジオ・カタリスト
作品名	ひがっしょ路地のまちづくり計画 (駒ヶ林町1丁目南部地区近隣住環境計画)
授賞理由	<p>本計画は、古代漁村集落の特徴を残す神戸市長田区駒ヶ林地区の木造密集市街地において、コミュニティの基礎となる路地構成を残しつつ、街区全体としての防災性を向上させる計画を開発し、実現したものである。</p> <p>神戸市の独自制度である「近隣住環境計画」を用いてルールを定め、法令等による規制や緩和を弾力的に運用し、防災性を高める建替えとあわせて2.7mの「路地」やまちかど「広場」の整備をすすめている。あわせて、餅つき大会とあわせた消火訓練や「助け合い MAP」の作成、住民相互の屋外水栓利用「じゃぐち協定」などソフト面の防災活動を行い、住民・市・コンサルタントが一体となった継続的なまちづくりの中で、地区の防災安全性とコミュニティ力を高めている。密集市街地における住民参加によるまちづくりの長年にわたる活動と成果が評価できるとともに、他都市・他地区でも敷衍可能な方法を具体的に示したことが特に優れている。以上の理由により本計画は、日本都市計画学会計画設計賞に相応しい内容を十分に有していると判断された。</p>

## 日本都市計画学会 功績賞・国際交流賞受賞者

(受賞者敬称略)

### <功績賞>

和泉 潤 名古屋産業大学特任教授

### <国際交流賞>

小林 英嗣 (一社)都市・地域共創研究所、北海道大学名誉教授  
中村 轟 元パラナ州環境局長、現ジャイメ・レルネル都市計画研究所

## 日本都市計画学会

### 功績賞・国際交流賞 選考経過

2014年日本都市計画学会功績賞・国際交流賞は、理事会のもとに設置された表彰委員会（特別功労表彰選考分科会）が、理事・監事・会長アドバイザー会議メンバー各位から候補者の推薦を受け、選考分科会で慎重に検討した。さらに分科会の審査結果を理事会に諮って、功績賞1名、国際交流賞2名の受賞が決定した。

なお、各賞の対象の種類は以下の通りである。

---

#### 各賞の対象内容

##### 功績賞

長年にわたって、都市計画学の進歩、発展に寄与してきた者で、その貢献が、社会的、学問的に見て顕著な者を対象とする。

##### 国際交流賞

長年にわたって、都市計画の国際的交流に携わり、海外諸国との交流並びに啓発普及と人材育成に貢献した者（外国人・日本人）を対象とする。



<b>功績賞</b>	
<b>受賞者</b>	<b>和泉 潤</b>
<b>授賞理由</b>	<p>和泉潤先生は、東京工業大学理工学部社会工学科卒業、同大学院理工学研究科社会工学専攻修了、同大学助手に採用された後、(財)都市経済研究所常務理事、国際連合地域開発センター研究員、朝日大学経営学部教授を歴任、現在名古屋産業大学環境情報ビジネス学部教授を務めている。</p> <p>先生の研究は、都市計画分野全体に及ぶが、特に情報化に伴う産業・地域の変化、地域情報ネットワーク、災害時における都市の情報処理機能等の情報に関する研究、ゼロエミッション、環境学習、感覚環境のまちづくり等の環境に関する研究、阪神・淡路大震災、防災管理、リスクコミュニケーション等の安全・安心に関する研究で顕著な業績を上げ、それを踏まえて名古屋産業大学の学部・大学院で教育を行っている。</p> <p>実務においては、蒲郡市総合計画審議会会長、岐阜市都市計画審議会会長、可児市都市計画審議会会長を歴任、更には蒲郡市行政改革委員会会長、長久手町行政改革推進委員会委員長等、中部圏市町村における行政改革を推進している。</p> <p>本会活動においては、中部支部幹事に就任し、幹事長・副支部長・支部長を歴任、本部でも理事・副会長を務め、本会の発展に貢献している。</p> <p>以上、和泉潤氏は、都市計画分野の研究・教育、更には実務面での都市計画行政の推進において顕著な貢献を上げており、日本都市計画学会功績賞を授与するものであります。</p>

## 国際交流賞

受賞者 小林 英嗣

### 授賞理由

小林英嗣先生は都市計画学および都市デザイン学において、都市計画から都市建築設計まで一貫する新たな学問領域を臨床都市計画学として体系化に貢献した。また、多くの省庁・行政機関で審議会委員・会長を務め、都市計画や都市デザインを主導された。本会における活動としては、理事・副会長・北海道支部長を務められ、運営や交流活動を先導されている。

国際的な活動は、わが国の都市計画学との関係が希薄だった国・地域との結びつきを強め、日本の都市計画学・技術の国際的な普及・支援に大きく貢献された。臨床都市計画学の国際化を中南米諸国において、人材育成・計画の理念・制度・手法の普及と実践を通じて、都市計画・都市地域デザインの発展に貢献された。その具体事項は以下の通りであります。

1) 1998年以降、継続して都市計画技術が未発達であるコロンビアをはじめとする中南米諸国において、日本の都市計画技術や土地地区画整理技術を普及された。さらに、コロンビア総括的都市計画法をもとに、詳細な法体系と計画技術が一体化した都市計画体系の創設と実践を指導した。

2) 特にアンデス諸国の都市計画技術者の育成に努力され、直接指導した技術者数は総勢100名を超える。各国の中央省庁・県や自治体の職員、民間コンサルタント技術者など多岐に亘り、各方面の人材を育成することで技術普及が体系的に取り組みされる仕組みの構築に尽力された。

3) ブラジル（クリチバ）を加えた中南米全体における都市計画技術の体系化と人材育成の仕組みを諸国間で連携させ、日本からの計画技術移転にとどまらず、より諸国や地域の実情に対応した、総合的な都市計画技術支援が行われる仕組みの創出支援に尽力された。

以上のように、小林先生のご業績は日本都市計画学会の国際交流賞にふさわしいと考えて、ここに授与するものであります。

## 国際交流賞

受賞者 中村 轟

### 授賞理由

中村轟氏は、大阪府立大学農学部卒業、同大学院農学研究科修了し、ブラジル・パラナ州コンテンダ市の農場に農業移民として入る。1971年よりパラナ州クリチバ市役所に勤務し、パラナ州教育局・環境教育コーディネーター等を経て、クリチバ市環境局長に就任された。都市緑化、リサイクル、スラム対策等に関する政策に取り組み、環境先進都市として国連環境計画賞を受賞されている。その後パラナ州環境局長に就任し、2001年よりクリチバの環境自由大学、特別プロジェクト・コーディネーターを2007年まで務められた。

これまでの環境政策への取り組みが評価され、クリチバ市をはじめ、多数の市より名誉市民賞を受賞されている。クリチバ市では、同市の植物園、動物園をはじめとし、公園などにランドスケープ・アーキテクトとして携わった。その意匠、空間への考えは、ウルグアイの造園雑誌にて評価されるなど、ブラジルで日本の造園技術、空間に対する繊細なる感性を活かした庭園づくり、公園づくりを推し進めている。

教育面でも、環境教育を小中学校の授業に取り入れ、スラム街に「環境寺子屋」を設置したりするなど多くの事業を成し遂げる。また、これまでの取り組みは、書籍や報道にて広くで紹介されている。

以上のように、中村氏は、都市計画分野で、ランドスケープ・アーキテクトという設計者だけでなく、市役所での多くの都市計画的事業を指揮してきた活動において、これまで多大なる貢献を果たしてきており、ここに日本都市計画学会国際交流賞を授与するものであります。

# 日本都市計画学会 2013年 年間優秀論文賞受賞論文

(受賞者敬称略)

下水熱利用地域冷暖房システムと連動した都市開発コントロールの有効性に関する研究

長谷川 圭佑・村木 美貴

日本統治期における台湾公設市場の空間構成と街区形成過程に関する復原的研究

-新竹市・宜蘭市・嘉義市を対象として-

井上 恵介・伊藤 裕久・栢木 まどか

スペイン植民地法に見られる植民初期の都市計画の尺度に関する試論

加嶋 章博

中国・上海市における民間事業所による「老洋房」の商業・業務利用

周 霏・李 瑾・澤木 昌典

路上乗り捨て型 EV カーシェアリングが市民意識と交通行動に及ぼす影響分析

-パリ市・autolib'を例として-

安藤 章・山本 俊行・森川 高行

明治初期と現代のマトリクス構造の変化が熱・風環境に与える影響に関する研究

-東京都心部を対象として-

高取 千佳・大和 広明・高橋 桂子・石川 幹子

利便施設の住宅地への混在に関する居住者の心理的評価

石川 徹・浅見 泰司

潜在成長曲線モデルを用いた地区レベルでの犯罪の時系列変化と地区環境との関連の分析

-東京 23 区における住宅対象侵入窃盗犯を事例に-

雨宮 護

## 日本都市計画学会

### 2013 年 年間優秀論文賞 選考経過

2013 年年間優秀論文賞は、当該年の 1 月から 12 月に発表された、発表会論文 159 編・一般研究論文 19 編、計 178 編の中から優れた内容を有する論文を学術委員会にて慎重に検討を重ね、授賞候補を選定した。さらに候補選定結果を理事会に諮って、8 編の授賞が決定した。

---

#### 表彰対象

1. 表彰対象

論文

2. 表彰のための選考対象となる論文

表彰当該年の 1 月から 12 月に発表された発表会論文及び一般研究論文

<b>論文名</b>	下水熱利用地域冷暖房システムと連動した都市開発コントロールの有効性に関する研究
<b>著者</b>	長谷川 圭佑・村木 美貴
<b>授賞理由</b>	本論文は、下水熱源と連動した都市開発コントロールの有効性を知るために、東京都区部の2地区に対して、下水熱賦存量と熱需要量の差に相当する割増容積率を指定することによって開発可能延床面積を計算し、下水熱利用に適した用途構成へのコントロールによる低炭素化効果を明らかにした。特徴としては、第1に、低炭素都市づくりのための都市計画上の開発コントロールに踏み込んだ研究として、時宜を得た社会性の高い研究であること、第2に、丁寧な計算によって政策上の効果を定量的に計算し、現状のデータアベイラビリティから考えると十分に有効な結果が得られていると考えられることがあげられる。

<b>論文名</b>	日本統治期における台湾公設市場の空間構成と街区形成過程に関する復元的研究 -新竹市・宜蘭市・嘉義市を対象として-
<b>著者</b>	井上 恵介・伊藤 裕久・栢木 まどか
<b>授賞理由</b>	本論文は、日本統治期に起源をもつ新竹、宜蘭、嘉義の公設市場の空間的特徴を、清代の旧道及び伝統的市場位置と市区改正図との比定と、歴代計画図を含む一次資料による立地選定の経緯の読み解き、更に建物配置やファサードタイプに関する詳細レベルの実測調査から、極めて詳細かつ明確に論じたものである。結論として、市区改正や制度化された亭仔脚の実現といった日本総督府による近代都市計画の成果だけでなく、清代からの場所性の継承や市区改正後の街並変容をも含む、重層的な空間として提示されている。採られた方法論とその十分な実施、その論文構成に至るまで完成度が高く、十分な内容を有していると評価できる。

<b>論文名</b>	スペイン植民地法に見られる植民初期の都市計画の尺度に関する試論
<b>著者</b>	加嶋 章博
<b>授賞理由</b>	本論文は、歴史的に遡った16世紀の、体系化以前の散在する諸法を精査して、グリッド状の都市基盤形成をもたらした萌芽的規範を見出し解釈したものである。結果として、最初の段階で中心広場（プラザ・マヨール）を一定の尺度で実現しておけば、都市の拡大に際してその尺度が反復されるようになり、整然としたグリッド状の都市空間が形成されるという、明確な都市計画理念が提示されている。現代の視点からみても興味深い都市計画史の知見が、一次資料から明示されているという点で、模範的な論文として評価できる。

<b>論文名</b>	中国・上海市における民間事業所による「老洋房」の商業・業務利用
<b>著者</b>	周 霏・李 瑾・澤木 昌典
<b>授賞理由</b>	本論文は、中国・上海市において租界時代に形成された伝統的建造物である洋館「老洋房」をどのように活用しながら保存をおこなっていくかという課題を扱った論文である。老洋房の問題点を明示し、今後の活用・保存の方向性について具体的に方向性を考察したものである。評価できる点としては、今回対象としている商業・業務利用の老洋房について、分布状況や利用状況に関する空間調査をおこなうとともに、各事業所に対するアンケート調査、ヒアリング調査で保存・活用に対する意識を明らかにし、行政側の考えを区政府に対するインタビュー調査で整理するなど、丁寧に緻密な調査を実施し、資料的な価値が高いと考えられる点が挙げられる。

<b>論文名</b>	路上乗り捨て型 EV カーシェアリングが市民意識と交通行動に及ぼす影響分析 -パリ市・autolib'を例として-
<b>著者</b>	安藤 章・山本 俊行・森川 高行
<b>授賞理由</b>	本論文は、パリ市・autolib'を対象として2か年に亘る導入前後の利用者意識調査（一部、パネル調査）を通じて、路上乗り捨て型 EV カーシェアリングの導入効果を分析した論文である。評価できる点としては、第一に、autolib'の導入による利用実態を分析し、市民の交通行動の変化を明確にした点があげられる。第二に、パネルデータを分析することで、EVの普及のための条件として市民が感じている点が、EVカーシェアリングを利用することで変化することを明示的に示している点があげられる。

<b>論文名</b>	明治初期と現代のマトリクス構造の変化が熱・風環境に与える影響に関する研究 -東京都心部を対象として-
<b>著者</b>	高取 千佳・大和 広明・高橋 桂子・石川 幹子
<b>授賞理由</b>	本論文は、明治初期と現代の建物や緑地等の都市環境データを整備し、微地形と土地被覆の組み合わせと気温・風速の関係性をシミュレーションにより比較分析したものである。評価できる点としては、第一に、明治初期の図面を基に約7万棟もの建物を手作業により復元するなど、都市環境の詳細なデジタルデータの構築があげられる。第二に、気温・風速のシミュレーションにおいて、微地形と土地被覆を組み合わせたマトリクス構造を用いて、広域的な三次元的変化による海風と建物や緑地による微細な気象との関係という異なるスケールの横断的な分析を行い、有益な知見を得ている点があげられる。

<b>論文名</b>	利便施設の住宅地への混在に関する居住者の心理的評価
<b>著者</b>	石川 徹・浅見 泰司
<b>授賞理由</b>	居住環境と居住者の心理評価に関してはこれまで多くの研究が見られるが、本論文は、都市のコンパクト化に関する問題を土地利用の混在の視点から分析し、居住環境に対する居住者の心理に基づき、より現実を反映した各施設配置の可能性について示唆を得ようとする論文である。評価できる点としては、第一に、アンケート調査により、各外出目的と施設配置の影響要因を混在と利便性の視点から整理した点が挙げられる。第二に、施設利用に関して、各外出目的の現状と理想の移動距離を分析し、都市の縮小化に対して有用な示唆を得ている点が挙げられる。

<b>論文名</b>	潜在成長曲線モデルを用いた地区レベルでの犯罪の時系列変化と地区環境との関連の分析 -東京23区における住宅対象侵入窃盗犯を事例に-
<b>著者</b>	雨宮 護
<b>授賞理由</b>	本論文は、大都市の町丁目レベルの小地域を対象に、潜在成長曲線モデルを用いて犯罪率の時系列変化と地区の社会的・物理的な環境の特徴との関係を分析したものである。精緻なモデルとデータを用いて、地区ごとの犯罪率のばらつきが、民間借家居住世帯比率、低層集合住宅居住率、世帯当り延床面積、昼間人口密度、用途混在の割合等の変数との関連で説明できることを、時系列変化を考慮に入れながら明らかにしており、今後の防犯まちづくりに対して有効な示唆を与える研究として高く評価できる。